

専門技術者の地位向上へ

日測協道支部が業務報告会

日本測量協会北海道支部は26日、2025年度定時業務報告会を札幌東急REIホテルで開いた。66人が参加。講習会などを通して測量や地理空間情報技術の普及と発達、専門技術者の社会的地位向上に努めるとした。25年度事業計画を報告した。

冒頭で橋本幸支部長と清水英範会長がそれぞれ

あいさつ。清水会長は「東京で見られるような若い企業の勢いを、全国や業界全体にどのように伝えるかがこれからの課題」と述べた。

事業計画には、技術者の教育研修として空間情報総括監理技術者資格制度などの充実やサーベイアカデミーなどの講習会開催を盛り込んだ。測量系CPDの普及に努める。道支部技術センターが公共測量講習会を釧路建設会館で10月23日に開くことも報告した。



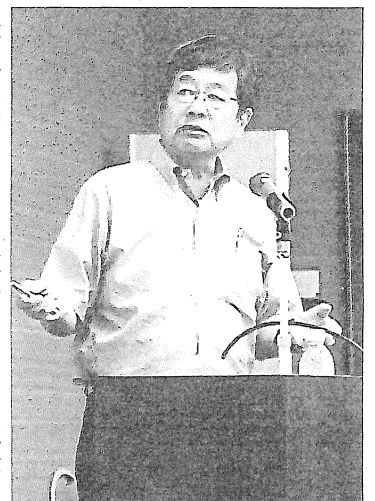
この日は業務報告に先立ち、小林一郎、熊本大名、教授と萩原亨、北大名誉教授がそれぞれ講演した。

冬季道路管理システム解説

日測協道支部 特別講演会 デジタルツイン活用

日本測量協会北海道支部は26日、札幌東急REIホテルで測量の日特別講演会を開いた。萩原亨、北大名誉教授が、デジタルツインによる冬季道路

交通マネジメントシステムについて講演。システムの有用性などを伝えた。6月3日の測量の日にちなんだ行事。99人が詰め掛けた。萩原名誉教授はデジタルツイン技術の概要を紹介した上で、2月に十勝地方であった国道の通行止めを事例に気



象情報を先読みした対応の重要性を説いた。続いて、デジタルツインによる冬季道路交通マネジメントシステムを説

明。冬季の路面や視界状況を紹介した。

況をインターネットを介して送り、地図上に表示する。「利用者から『予想外のトラブルが避けられるのが良い』とのフィードバックがあった」と紹介した。

その上で「最終的にはデジタルツインを冬季自動運転の実現につなげたい」と強調。「ドライバ―や車に直接、デジタルツインの先読み情報を伝える仕組みに挑戦する」との考えを示した。